



問合 スポーツ青少年課



メッセージ

(一部抜粋要約)

市長 南出 賢一

二十歳の門出を迎えられた皆さん、おめでとうございます。

皆さんに4つの話をお伝えします。

1つ目は、最近の泉大津市の動きについてです。図書館シープラは、開館後3年を待たずに来場者数が100万人を超え、シーパsparkには、レストラン「GAR B GREEN WALK」がオープンしました。さらに、バーベキュー施設「N-GRILL」にドッグランも整備され、昨年12月には泉大津急性期メディカルセンターと周産期小児医療センターが開院するなど、まちの様子は大きく変わってきました。これからのまちづくりを担う皆さんが、泉大津市をより良い場所にしてほしいと願っています。

2つ目は、夢と志の違いです。夢は自分の笑顔に返ってくるもの、志は自分だけではなく周りの笑顔に繋がるものです。志は、周り

からの応援を受けやすいものです。挑戦を続けながら、「夢」を「志」に育んでください。

3つ目は、自分で情報を収集し決断することの重要性です。メディアや周りに流されず、自分で情報を集め、判断してください。何をしたいのか、何を大事にしたいのかを見極め、自分が納得する道を歩んでください。

最後は、両親やご先祖、今まで関わってくれた人に感謝の気持ちを伝えてください。自分がどんな人生を歩みたいか心に誓い、一日一日を大切に過ごしてください。楽しむときは楽しみ、頑張るときは頑張る。メリハリをつけて、健康で幸せな人生を送ってください。

以上、皆さんの人生が幸多きものになることを心から願っています。



出席者代表 誓いの言葉

(一部抜粋要約)

もりた みずき 森田 瑞季さん

本日は成人の日にあたり、このような華々しい式典を設けていただき、心より感謝申し上げます。

私は昨年、ホッケー世代別日本代表選手として、21歳以下W杯アジア予選大会に参加させていただきました。この場をお借りして代表活動を通して感じたことをスピーチしたいと思います。それは携わってくださっている人たちに感謝の気持ちを持って行動するという事です。大会運営に関わる人たちはもちろん、日頃から共に練習を行う指導者やチームメイト、支えてくれている家族など、ホッケーをさせていただける環境全てに対して常に感謝の気持ちを忘れないように心

がけています。そして感謝の気持ちを表すのは行動です。ホッケーでは応援して下さっている人たちの期待に応えてプレーをし、結果を残すということが感謝の気持ちに繋がります。

今を作る人たちに感謝をし、これからは私たちが現代を作る側になっていきます。この門出を胸に刻み、それぞれの道で邁進していきたいと思っています。

最後になりますが「二十歳のつどい」を開催して下さった全ての人たちに感謝の意を表し、代表挨拶とさせていただきます。



やまうえ くるみ やまぐち ねね 山上 来実さん(写真右) / 山口 和音さん(同左)

本日、このような盛大な式典を開催していただき、本当に嬉しく思い、心より感謝申し上げます。

コロナという未知のウイルスが猛威を振るい、楽しみにしていたことも半分削られた私たちですが、二十歳を迎えて、責任のある行動が求められるようになりました。まだまだ未熟な私たちは、多くのことを学び経験していく過程であると感じ、自分自身の目標や夢に向かって努力を重ねるとともに、社会の一員として役割を果たせる大人になりたいと思っています。

自分の夢は自分にしか叶える事が出来ません。一度抱いた夢を貫き通す事はとても難しいですが、自分のためにも、大切な人のた

めにも努力して参りたいと思います。そして、私たちが今後の時代を担い、少しでも明るく前向きな未来を創っていくよう、精一杯頑張っています。

今日まで、私たちと関わり、私たちを育て、ご指導いただきました皆様へ本日私たちが無事二十歳を迎えたことをご報告するとともに、出席者を代表いたしまして心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

泉大津市で生まれた私たち『まじ、永久不滅』





令和7年1月13日祝 二十歳のつどい

総合体育館で「二十歳のつどい」が開催されました。

出席者を代表して3人が誓いの言葉を述べ、決意を新たにしました。

また、本市出身のプロサッカー選手・喜田陽選手(セレッソ大阪)からのお祝いメッセージの紹介や、泉大津市吹奏楽団による演奏、参加者全員による抽選会などが行われました。

当日は630人が参加し、それぞれの想いを胸に、二十歳の門出を迎えました。





第5次泉大津市総合計画を策定しました！

詳しくはこちら



「#おづの未来計画」

総合計画は、市の将来のあり方を展望し、その実現に向けた施策の基本的な方向や体系を示した10年の計画です。

このたび、令和7年4月から始まる第5次泉大津市総合計画、愛称「#おづの未来計画」を策定しました。泉大津市の未来を、みんなで共に創り上げていきましょう！

問合 政策推進課

第5次泉大津市総合計画のポイント

みんなで目指そう！まちの将来像

人と人が繋がり紡ぐ 未来輝くまち 泉大津 ～何でも近いで ええとこやで～

基本理念①

「繋がりを紡ぐ」

多様な主体が繋がり、主体的にまちづくりを進める「共創」によって、問題解決や発展を目指します。

基本理念②

「多彩な人材の活躍」

多彩な人材が集まり、一人ひとりの個性が強みとなって活躍できるまちを目指します。

基本理念③

「知識のアップデート」

最新の情報や知識に対して持続的に学びの姿勢を持ち、柔軟かつ持続可能な学びのまちへ進化し続けることを目指します。

まちの将来像の実現に向けて、分野ごとに目指す姿を「基本目標」として体系的にまとめました。

みんなが互いに繋がり、理解し共感しあうことで
新たな刺激が生まれるまち

主体的に学び、生涯にわたって学びの環境を
自由に選ぶことで成長し続けるまち

みんなが生き生きと、心豊かに
健やかに暮らせるまち

安全・安心を一人ひとりが考え、
みんなで作くりあげるまち

みんなが住みよい環境が
整っているまち

地域資源を活かしたにぎわいが生まれ、
再生、発展するまち

新たな力を取り入れ、柔軟に
アップグレードし続けるまち

たくさんの応募・投票、ありがとうございました！

●総合計画の愛称決定！！

市民ワークショップで出た「計画をみんなに知ってもらうため、計画に愛称があるといいのでは」という意見をもとに愛称案決定の投票を実施したところ、投票総数485票のうち、221票を集めた「#おづの未来計画」に決定しました。

投票結果 /

1位 「#おづの未来計画」……………221票
作成者：はるさん

2位 「OZまち計画」作成者：プクさん……………203票

3位 「紡ぎ織り編むプラン」作成者：ゆーきさん…61票

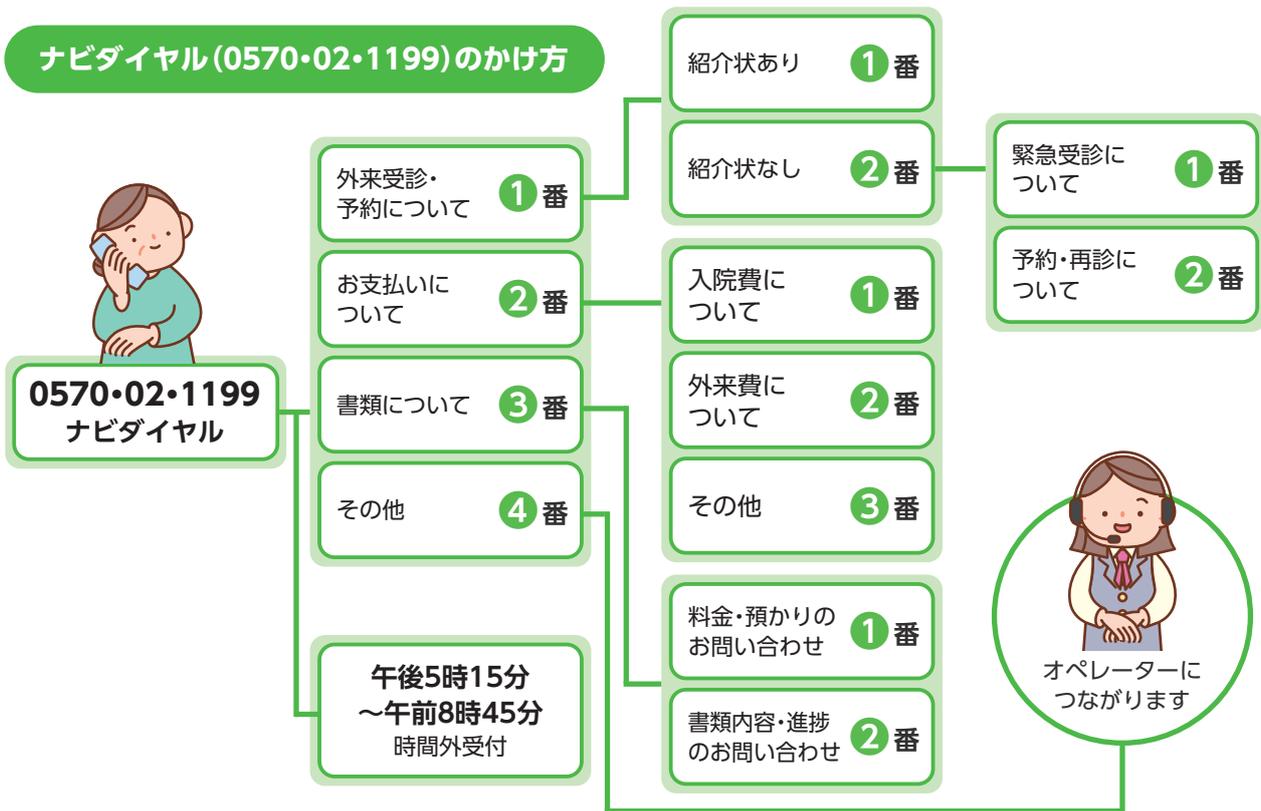
泉大津急性期メディカルセンターからのお知らせ

問合 市立周産期小児医療センター事務局総務課 ☎0725・32・5622

■ナビダイヤルのかけ方のご案内

泉大津急性期メディカルセンターでは、代表電話の混雑防止のため、問合専用の自動音声案内サービスを導入しています。音声案内に従い、希望の番号を押してください。案内の途中でも操作は可能です。

※音声案内が流れている間は、通話料金はかかりません。



■泉大津急性期メディカルセンター受診時は、紹介状をお持ちください

本センターは、かかりつけ医からの紹介状を持って受診いただくことに重点を置いた医療機関のため、外来受診時は原則、紹介状が必要です。紹介状がなくても受診は可能ですが、紹介状がない場合は、診療費の他に「選定療養費(7,700円)」をいただきます。かかりつけ医からの紹介状をお持ちの人は、今まで通り選定療養費は必要ありません。

令和6年12月15日投開票 泉大津市長選挙

南出賢一氏が再選

問合 選挙管理委員会事務局

任期満了に伴い2人が立候補した泉大津市長選挙は令和6年12月15日に投開票され、即日開票の結果、南出賢一氏(44歳 無所属)が当選しました。投票率は44.07%で、前回より6.27ポイント上回りました。

任期は、令和7年1月13日から令和11年1月12日までの4年です。開票結果は次のとおりです。

■泉大津市長選挙 開票結果(敬称略・得票順)

	候補者	得票数
当選	南出 賢一	2万1,700票
	立花 孝志	4,439票

■泉大津市長選挙 投票結果

当日有権者数	6万239人
投票者数	2万6,546人
投票率	44.07%

衣服や繊維製品にまつわる思い出、感動したことなどをテーマとしたエッセイで「繊維のまち・泉大津」を広くPRするために創設した「泉大津市オリアム随筆賞」。第13回の受賞作品が、全国から応募のあった324点の作品から選考されました。

選考は、有栖川有栖氏、玉岡かおる氏、吉村萬吉氏、今年度から新たに室井滋氏が加わり、厳正な審議を経て「オリアム随筆賞(最優秀賞)」を含む上位6作品と、特別賞の「泉大津市長賞」を最終決定しました。入賞全作品は市ホームページに掲載しています。

また、3月22日(土)にテクスピア大阪で受賞者の授賞式および選考委員をパネリストに迎えた「オリアムエッセイ文学フォーラム2025」の開催を予定しています。

※詳細が決まり次第、市ホームページでお知らせします。

受賞者一覧(敬称略)

賞	賞金	作品タイトル	氏名・年齢
オリアム随筆賞(最優秀賞)	50万円	クラスメイト	大西 賢(52)
優秀賞	5万円	手縫いのブックカバー	市菌 勢津子(62)
優秀賞	5万円	織りゆく命	浅野 理恵(43)
佳作	3万円	二枚目のハンカチ	原 稔宏(64)
佳作	3万円	織り姫様の唄	須山 恵美(33)
佳作	3万円	背守りの約束	林 知子(76)
泉大津市長賞	市特産品 2万円相当	優れもの	倉長 秀至(82)

※年齢は受賞作品が決定した令和6年12月12日時点のものです。

受賞作品
掲載ページ



有栖川 有栖氏

今年も候補作の水準が高く、選考にあたっては大いに迷った。

最優秀賞「**クラスメイト**」は、小学生時代の忘れがたい記憶が鮮やかに作品化している。「男子みんなが好き」と言って転校して行ったサオリちゃんの心情を色々想像してしまった。

優秀賞二編のうち「**手縫いのブックカバー**」は、手縫いのブックカバーに再生の意味が二重にこめられているのが巧み。「**織りゆく命**」は、機織りの音と動きがいきいきと伝わってくるのが心地よかった。

佳作の三作について、「**二枚目のハンカチ**」は、読む者を素直な気持ちにしてくれるような作品。「**織り姫様の唄**」は、からむし織が家族のドラマに絡んで、このエッセイという織物も生んだように思えた。「**背守りの約束**」は大変ドラマティックで、その中心にあるのが背守りという印象的。

泉大津市長賞も読み応えのある作品が候補に並んだ。その中から選ばれた「**優れもの**」は、迷いのない力強い筆致で書き抜かれている点に惹かれた。



玉岡 かおる氏

今年レベルの高い作品が多く、悩まされた。最優秀賞となった「**クラスメイト**」は、ハンカチなど使う意識のなかった昭和の小学生男子が彷彿とでき、直接書かれてはいない病弱な女子生徒の姿や思いが浮き立つよう。優秀賞の「**手縫いのブックカバー**」は、淡々としていながら、亡くなった夫の輪郭が浮かび上がるよう。再生されたブックカバーにご自身の今が重なる。同優秀賞の「**織りゆく命**」は、家族性低身長症という聞き慣れぬ病名もさることながら、複雑な遺伝子を織りにたとえた視点が効いた。もし福島での特別な状況が背景にあるなら書いてほしかった。佳作「**二枚目のハンカチ**」はハンカチで他の作品と重なったが、感動的なエピソード。佳作「**織り姫様の唄**」は、織るという体験を独特の音で綴ったオリジナリティが光った。または佳作「**背守りの約束**」は、毛布やセーターなど例年多く書かれるアイテムと一味違う背守りが印象的。年に一度の『第九』を効かせればさらにドラマチックだったかも。泉大津市長賞「**優れもの**」は毛布の町・泉大津のよさを余すことなく書けた、感心すべき作品といえるだろう。

選考委員による選評



吉村 萬吉氏

今回から室井滋さんが加わって男女比が均等になった。

「**クラスメイト**」は、サオリさんがクラスの男子全員を好きというのは少し出来過ぎかと思ったが、他の選考委員の話を聞く内に、病気もあって大人びていたサオリさんの目に、クラスの男子たちが子供っぽく愛おしく見えた

のかも知れないと納得がいった。

「**手縫いのブックカバー**」は、新型コロナウイルスによる夫の死を、ウェットに流れがちになるところをよく堪えてドライな筆致で描き切った点が、見事だった。

「**織りゆく命**」は、福島のからむし織の縦糸と横糸を父母の遺伝子に喩えることで家族が自分たちの運命を受容していく姿が印象的で、糸の「物語」が生きる力を生んだのだと思った。

「**二枚目のハンカチ**」は、誰かのために二枚目のハンカチを持つという利他的発想に、「**織り姫様の唄**」は機織りの音が唄であることに、「**背守りの約束**」は背守りの存在そのものに、教えられるものがあつた。

「**優れもの**」は作者の人生と毛布との繋がりに、個人的なものを超えた時の重みを感じた。

難波利三さん、長い間有難うございました。



室井 滋氏

今年初めて、選考委員に加わりました。

拝見していて、随筆を書き慣れた方が多いのにまず驚きました。全体の構成がよく練られ、起承転結もしっかりしていて、とても読みやすい。少々意味不明ながら感情が溢れ過ぎて爆発!…なんてえのはまるでなかった。しかし、正直申し上げて、パランスの整ったものが面白いかという、かならずしもそうでない所が難しいのかもしれない。

さて、本題に参ります。最優秀賞の「**クラスメイト**」は遠い昔の思い出なのに筆者の心模様のテンションが高く、登場人物のキャラクターも印象的でした。優秀賞「**手縫いのブックカバー**」は手縫いのブックカバーとの出会いが筆者のその後の心の支えとなる描写にグッときました。そして「**織りゆく命**」も…。家族間の「事件」から「解決」までの道のりを読みつつ、最後には「良かったね」と呟いたものです。佳作「**二枚目のハンカチ**」は「一枚目は自分のため、もう一枚は人のため」がステキ。「**織り姫様の唄**」はファームステイの体験が若々しく生き生きと綴られており、「**背守りの約束**」は「背守り」にまつわる不思議なお話に引き込まれました。そして泉大津市長賞には「**優れもの**」がピッタリ!毛布への熱い想いがそのまま泉大津市の大きな誇りに結びつく作品だと思いました。

他にも強く推した作品がいくつもありませんでした。自分の心を原稿用紙に写すことは、素晴らしいと改めて感じた次第であります。

クラスメイト

大西賢・東京都日野市

小学校四年生のときに「衛生検査」というものがおこなわれるようになった。毎日、一時間目の前に、生徒たちは両手を机の上に出す。爪をきちんと切つてあるかどうか。そしてもう一つ。ハンカチを出す。きちんと持ち歩いてあるかどうか。この「ハンカチ検査」が重要だった。

私の学校だけなのかもしれないが、当時の小学生男子はあまり行儀が良くなかった。手を洗うと当然、手は濡れるのだが、その濡れた手はどこで拭くかというところ、「ズボンで拭く」か「シャツで拭く」かに分かれた。ハンカチを持ち歩く男子はいなかったのだ。ひどい生徒になると、掃除の時間に雑巾がけで濡れた手を教室のカーテンで拭く者もいた。私もその「ひどい生徒」のうちの一人だった。男子たちのこの行儀の悪さに、女子たちは顔をしかめた。学級委員の女子生徒が、「先生、また男子が濡れた手を！」などと報告するのだが、男子たちはその行為をやめなかった。まだテレビゲームが普及する前の昭和の日本である。「子供はどんなことになるまで外で遊んできなさい」などと親から「指導」されるような時代だった。ある日、外が真っ暗になるまで公園で友達と遊んでいたことがある。心配した母が叱りつけたのだが、父は「男の子はお母さんを心配させるぐらいでちょうどいいんだ」などと笑っていた。そういう時代であり、そういう地域だった。だから、ハンカチを持ち歩くという男子はいなかった。裕福な男子も成績優秀の男子も、みんな濡れた手はシャツやズボンで拭いていた。

そんなある日、朝礼の時間に、男子生徒全員に新品のハンカチが配られた。先生が、「サオリさんから男子への贈り物です」と言った。

サオリさんは大人しくて目立たない女子生徒だった。男子の不衛生な行為にそれほど怒っている気配はなく、あまり自分の意見を表明しないタイプだったため、このハンカチの配布は男子を驚かせた。

だが、サオリさんがくれたハンカチを、誰も持ち歩こうとしなかった。粗暴さや不潔さを競うような小学生男子の世界で、女子がくれたハンカチを持ち歩くのは軟弱さの象徴のように思えた。多くの男子は女子生徒からプレゼントをもらうのは初めてであり、妙に気になったのだが、男子みんながあまりにも意識しすぎて、使おうとしなかった。

「そういうえば、最近、サオリさん学校に来ないね」誰かがそう言ったので、ようやく気付いた。たまたまだろう、とあまり気にしなかったのだが、一週間経つても二週間経つても、サオリさんは学校に来なかった。

「サオリさんは別の小学校に転校しました。もう皆さんとは会えません」担任の先生から朝礼でそんなことを言われて、男子たちはびびくりした。

サオリさんは重度のぜんそくをもっていた。空気の悪い東京でこれ以上生活はできず、環境のいい東北に引っ越したのだ。

十歳である。健康で当たり前だと思っていたが、実際は同じ年で命を保つために住まいを変

えなければならぬ人もいたのだ。

男子たちはその日、去ってしまったクラスメイト、サオリさんのことを話した。彼女が勉強が得意だったのか、誰も知らなかった。音楽や図工が好きだったのかどうか、それもみんな知らなかった。

「そういうえば、体育の時間、いつも見学していたような気がする」男子の一人がそんなことをつぶやいた。

派手な言動を好まず、リーダーシップや責任といったものからも距離を置いていた彼女をもっと大切にしておけば良かった、と男子たちは後悔した。

「俺たちがハンカチを持ち歩かなかったから、この学校で暮らせなかったのかな」男子の一人が言った。

空気のいい東北で、という先生の言葉が、まるで自分たちの不衛生な振る舞いをやんわりと非難しているようで、やけにこたえた。

翌日から男子たちはハンカチで手を拭くようになった。誰もサオリさんのことを口にしなかったが、ハンカチを持ち歩いていることが、彼女に思いを馳せている証拠だった。

クラスメイトをもっと大切にしよう。

それまで行儀の悪かった男子たちは、風紀を乱すことを慎むようになった。それを見てサオリさんと仲の良かった女子が言った。

「あだし、サオリちゃんと一緒にハンカチを買に行ったらけど、すごく楽しそうに選んでいたよ。男子みんなが好きなんだって」

シニア向けスマホ教室を開催

Android編(全3回)



問合せ 政策推進課

電話だけ、メールだけではなく、スマホの使い方を基礎から応用・発展編まで学びます。

2回目と3回目の講座では、スマホに関する質問ができます。

- 1回目…基礎編(基本操作やLINEの使用方法)
- 2回目…応用編(地図機能や新しい機能の追加方法)
- 3回目…発展編(その他の便利な機能について)



日時 2月18日・25日、3月11日(いずれも火曜日)

各日午後2時～4時

場所 テクスピア大阪

対象 市内在住のおおむね60歳以上ですべての回に参加できる人

定員 先着16人

申込・問合せ 2月7日(金)午前10時から電話でNPO法人きんきうえび

TEL 0721・29・0019



泉大津市民・高石市民・忠岡町民対象

問合せ 人権くらしの相談課

リスキングセミナー(求職者・転職者向け)

成長の鍵は新しいスキルにあり リスキングの第一歩を踏み出そう

デジタル化の進展に伴い、スキルの再学習が必要といわれています。

新たなスキルを身につけ、自身のキャリアの選択肢を広げるために、就労に直結するデジタルスキルの習得やキャリア形成をサポートしてきた講師がIT業界の事例を用いてリスキング(※)について分かりやすく説明します。

※新しい職業に就くため、あるいは、今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に対応するために、必要なスキルを獲得する・させること

日時 2月13日(木)午後1時30分～2時30分

場所 テクスピア大阪

対象 泉大津市民・高石市民・忠岡町民

定員 30人程度(当日参加可能。ただし事前申込優先)

申込 ウェブまたは電話

TEL 0725・33・1131



〈こんな人におすすめです!〉

- 新たなスキルを身につけたい
- 子育てしながらキャリアアップしたい
- 自身のキャリアの選択肢を広げたい
- 仕事もプライベートも両立させたい
- IT業界に興味がある

申し込みはこちら



ふるさと納税返礼品提供事業者を募集しています

問合 秘書広報課

市では、ふるさと納税寄附額の増加を目指して、魅力ある返礼品の充実に取り組んでいます。返礼品の充実には、事業者の皆さんの協力が必要です。皆さんが市内で生産・製造・加工している、自慢の商品を返礼品として登録しませんか。

返礼品提供事業者になることのメリット

① 配送料や掲載料は市が負担します

返礼品の配送料、寄附受付サイトへの掲載費用は、市が負担するため、事業者の負担は少なく済みます。

② 自慢の商品を全国にPRし販路拡大

市では、令和7年1月31日現在で16の寄附受付サイトを運用しています。サイトに返礼品を掲載することで、全国の皆さんに商品をPRすることができ、販路拡大につながります。

③ インターネットでの販売経験がなくても大丈夫

インターネット環境があり、商品管理や発送が可能であれば、すぐに始めることができます。わからないことは職員がフォローします。

現在、市のふるさと納税では地場産品である毛布やニット製品、市内の工場で作られているチーズやハンバーグ、泉州地域特産のタオルが人気です。繊維製品・食品はもちろん、市内での体験型・店舗型サービスなど特色のある返礼品もお待ちしています。「私たちの商品は返礼品になるのかな」と思ったら、お気軽にお問い合わせください。



ご活用ください!

新たな返礼品の開発や既存の返礼品の魅力向上に要する経費の一部を補助します(補助割合: 4分の3、上限額65万円)。条件など、詳しくはお問い合わせください。



2市1町広域連携企画

泉大津市・高石市・忠岡町の気になる情報をお届けします!

泉大津市



福祉バスの共通停留所を設置しました

令和6年12月から、泉大津市・高石市・忠岡町の福祉バスをつなぐための共通停留所を設置しました。

「センペル公園前」では高石市の福祉バスと、「太平のゆ」では忠岡町の福祉バスと、それぞれ乗り継ぐことができます。

対象 60歳以上の人、障がい者手帳を持っている人、妊産婦、乳幼児連れの人、対象者の介添え者など
※車いすを利用する人は、介添え者と一緒に乗車をお願いします。

問合 泉大津市福祉政策課

☎ 0725・33・1131



詳しくはこちら▼



高石市



カモンたかいしのトレーニングルームを使ってみよう!



カモンたかいし開館10周年イベントとして、トレーニングルーム無料体験を実施します。初めて利用する人に限り1回無料で利用できます。

期間 2月21日(金) ~3月20日(祝)

場所・問合

カモンたかいし (高石市西取石6-5-6)

☎ 072・263・2622

詳しくはこちら▼



忠岡町



忠岡町限定デザイン『全国消防カード』を配布

忠岡町消防本部では、限定デザインの全国消防カードをはじめ、消防や救急に関するグッズやパンフレットを無料で配布しています。
※数量限定のため1人1枚の配布です(なくなり次第終了)。

配布時間 月~金曜日の午前9時~午後5時30分

配布場所・問合 忠岡町消防本部総務課 (忠岡町忠岡北1-1-23)

☎ 0725・31・0119

